

半島振興を促進するための七飯町における産業の振興に関する計画

平成25年5月 日

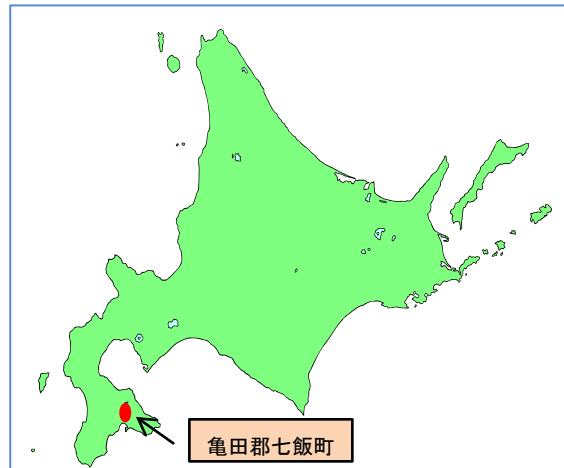
北海道亀田郡七飯町

1. 計画策定の趣旨

◆七飯町の概況

【位置・地勢】

七飯町は、北海道渡島半島の南部に位置し、北海道表玄関である函館市から北西に約16kmの距離にあり、216.61km²（平成元年11月10日官報公告）の面積を有する町です。北方は宿野辺川を境に森町に、東北は雨罇川を境に鹿部町に、東南は横津岳の山頂より蒜沢川を境に函館市に、南西側は北斗市にそれぞれ接しています。



また、七飯町は大沼トンネルを境に北部と南部に別れ、北部の大沼地区には活火山である秀峰駒ヶ岳（標高 1,131m）、また平成24年7月3日にラムサール条約登録湿地に指定された大沼・小沼・じゅんさい沼を擁する大沼国定公園があり、公園入口は市街地が形成されており、それに接する平坦地は水田、山麓一帯には酪農・畑作地帯が広がっています。

南部は、ほぼ中央を国道5号が縦断しており、国道沿線は市街地として開発が進んでいますが、西側の平野部は水田、東側の丘陵部には畑作・果樹地帯として一次産業を守っています。

位 置		広 ぼう	
東 経	北 緯	東 西	南 北
140°41'39"	41°53'43"	23.2 km	20.2 km
七飯町本町6丁目1番1号		東 東経 140°47'34"	南 北緯 41°49'01"
標高 78 m		西 東経 140°34'52"	北 北緯 42°04'18"

【気候】

七飯町は、北海道の南西部に位置し降水量は少なく道内では最も温暖な気候に恵まれ、四季の区別がはっきり感じられる良好な自然環境を有しています。

年次	平均気温	日照時間（年）	降水量（年）	積雪（最深）
H20	9.5℃	1,788.4h	879.0mm	41cm
H21	9.5℃	1,677.8h	1,339.0mm	35cm
H22	9.9℃	1,613.4h	1,189.0mm	47cm
H23	9.4℃	1,762.3h	1,116.0mm	50cm
H24	9.5℃	1,729.8h	1,228.5mm	91cm

（資料／函館海洋气象台）

【総人口】

七飯町の総人口は、下記の表のとおりであるが平成 2 年は 23,963 人でしたが平成 7 年に急増し、その後は安定して推移し平成 22 年では 28,463 人となっています。

道南（函館圏：函館市、北斗市、七飯町）全体で見ると減少しているものの、微増ではありますがベッドタウンとして唯一人口の増加傾向が続いています。

年次	世帯数	人口総数	内 訳		伸び率
			男	女	
S35	3,103	16,657	8,166	8,491	△7.9%
H40	3,477	16,785	8,213	8,572	0.8%
H45	3,957	16,745	7,912	8,833	△0.2%
H50	4,879	18,710	8,718	9,992	11.7%
H55	6,042	21,267	9,961	11,306	13.7%
H60	6,785	22,607	10,601	12,006	6.3%
H 2	7,547	23,963	11,211	12,752	6.0%
H 7	9,017	27,040	12,633	14,407	12.8%
H12	9,930	28,354	13,132	15,222	4.9%
H17	10,369	28,424	13,031	15,393	0.2%
H22	10,891	28,463	12,977	15,486	1.4%

(資料／国勢調査)

※参考／住民基本台帳より人口等

H25.3 月末 現在	世帯数	人口総数	内 訳		前年同期 伸び率
			男	女	
	13,004	28,712	13,238	15,474	0.01%

【人口動態】

人口動態で見ると自然動態では、出生数の減少及び死亡数の増加により平成 13 年以降減少に転じています。

また、社会動態では、近年、転入が転出を上回る増加傾向が続いており、平成 25 年 3 月末には、転入 1,243 人、転出 1,226 人と 17 人の社会増になっています。

年次	自然動態			社会動態			純増減数
	出生数	死亡数	増減数	社会増	社会減	増減数	
H21	208	299	△91	1,285	1,371	△86	△177
H22	175	321	△146	1,214	1,183	31	△115
H23	187	333	△146	1,223	1,108	115	△31
H24	189	326	△137	1,314	1,097	217	80
H25	189	358	△697	1,243	1,226	17	△152

(資料／住民基本台帳各年 3 月末)

【年齢別人口構成比】

平成12年までは、生産年齢人口（15～64歳）と老年人口（65歳以上）の増加傾向が続いておりましたが、平成17年以降、生産年齢人口は減少に転じ老年人口は増加傾向が続き、年少人口（0～14歳）においては、平成7年をピークに減少傾向が続き少子高齢化が進んでいます。

年次	老年人口		生産年齢人口		年少人口	
	65歳以上	割合	15～64歳	割合	0～14歳	割合
H2	4,496	18.8%	15,871	66.2%	3,596	15.0%
H7	4,728	17.5%	17,704	65.5%	4,608	17.0%
H12	5,964	21.0%	18,084	63.8%	4,306	15.2%
H17	6,925	24.4%	17,524	61.6%	3,975	14.0%
H22	7,922	27.8%	16,924	59.5%	3,607	12.7%

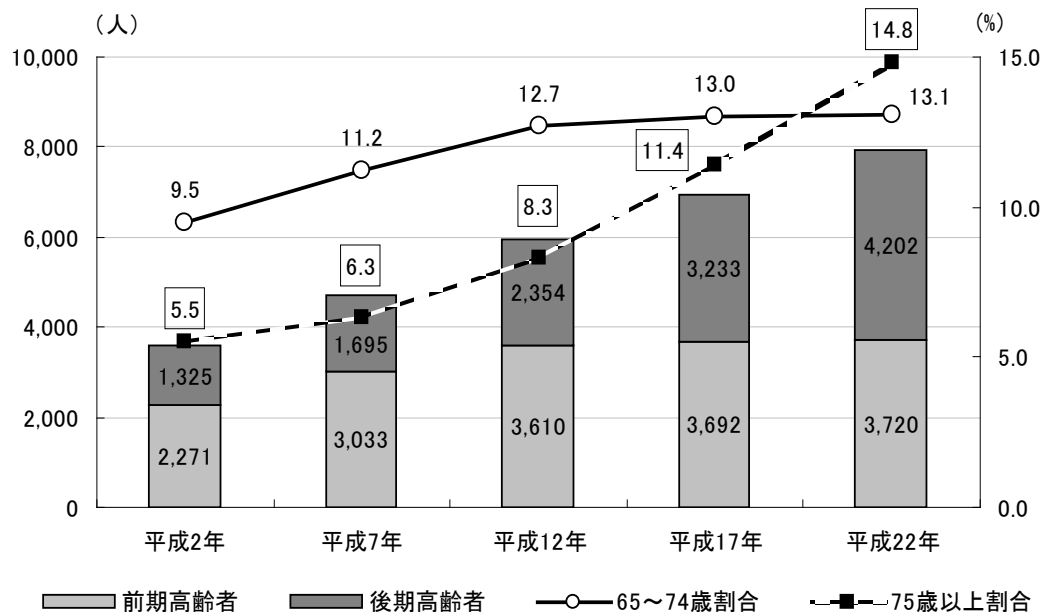
(資料/国勢調査)

※参考/住民基本台帳より人口等

H25.3月末	総人口	老年人口		生産年齢人口		年少人口	
現在	28,712	8,155	28.4%	17,028	59.3%	3,529	12.3%

【高齢者人口】

高齢者人口（老人人口）は一貫して増加しており、前期高齢者（65～74歳）の割合は平成2年の9.5%から平成22年の13.1%に増加しました。一方、後期高齢者（75歳以上）の割合は、平成2年の5.5%から平成22年には14.8%とおおよそ3倍近くに増加し、前期高齢者の割合を超えています。



(資料/国勢調査)

2. 計画対象とする地区

本計画の対象とする地区は、七飯町全域とします。

3. 計画期間

計画期間は、平成 25 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までとします。

但し、渡島地域半島振興計画（平成 17 年度から平成 26 年度）の見直しが行われた場合など、必要に応じて計画変更を行うこととします。

4. 対象地区の産業の振興の基本的方針

（1）七飯町の産業の現状

【交通】

七飯町の交通は、国道 5 号は、慢性的な飽和状態にありましたが、平成 13 年 3 月に函館新道が全線開通し、函館市から七飯町中心部まで車で約 10 分と結ばれています。北海道縦貫自動車道についても平成 24 年 11 月 10 日に大沼公園 IC まで供用開始となり交通アクセスの向上が図られています。

また、隣接する市町へは国道 5 号に接続している道道（大野大中山線、七飯大野線、上磯峠下線、新函館停車場七飯線（仮称）、大沼公園線、大沼公園鹿部線）が整備されており、平成 27 年度末に開業予定されている北海道新幹線新函館駅（仮称）から国道 5 号に接続する道道新函館停車場七飯線（仮称）は開業に合わせ整備が進められています。

鉄道の JR 函館本線は、国道 5 号に並行するように走っており町内には 8 駅あります。観光地大沼国定公園の玄関口である大沼公園までは特急で函館駅から 20 分、札幌駅から 3 時間 10 分の所要時間です。また、平成 17 年度より北海道新幹線が着工され、平成 27 年度末の開業に向け着々と進んでいます。そして、札幌延伸決定に伴い新函館駅（仮称）隣接地である七飯町内の総合車両基地においてもフル活用され、関連企業の進出も含め町内雇用拡大が期待されています。

空路は、函館空港を利用することになりますが、函館・東京間のダブルトラッキング運行をはじめ、札幌（新千歳・丘珠）、大阪（関西）、名古屋（中部）の全国主要 4 都市間で運行され利便性が増しています。函館・東京間の所要時間は 1 時間 20 分であり、函館空港から大沼公園までのバス直通便が運行されています。

【農業】

七飯町の一次産業である農業は、安政 2 年（1855 年）の箱館開港から始まり、七重（七飯町）は外国人の遊歩地区に指定され外国船に食料を供給するため、いち早く西洋農法が取り入れられました。

さらには明治 3 年（1870 年）、プロシア人（現ドイツ人）R.ガルトネルが大規模な農場を七飯に開き、日本で最初に洋種（りんご、さくらんぼ等）農作物の栽培を行ったのが契機と

なり、「西洋農法発祥の地」として北海道の開拓や農業近代化等に大きな足跡を残しています。こうして先進的な取組がなされてきた背景の下、昭和53年に道内では初めて（全国2番目）真空予冷庫を導入し、道内外に向けての野菜等を移出できる早出し産地として位置づけられています。

近年の当町農業（下記表）の中心は、水田をはじめ人参・長ねぎ等の野菜、りんご等の果樹、カーネーションを主軸とする花き栽培、酪農、畜産と多岐に渡って盛んに行われています。

（単位：百俵・百t・百万本・頭・百万円）

年次	米	大根	人参	りんご	白かぶ	長ねぎ	果樹	花卉	乳牛	肉牛
H20	234	50	72	3.9	6.6	24	8.6	21	112	643
	253	398	925	203	79	668	61	1182	797	178
H21	206	52	62	4.0	6.3	26	8.0	20	110	2815
	353	401	808	204	82	703	51	1134	845	393
H22	245	48	64	3.8	5.5	26	4.8	18	107	4544
	270	356	1168	217	74	963	46	1130	801	554
H23	272	37	68	3.8	5.9	31	2.7	19	90	5090
	323	309	769	203	79	843	52	1105	693	629
H24	268	31	57	3.5	5.8	31	2.4	18	93	4963
	381	295	832	187	74	909	42	992	732	615

（資料／JA取扱実績数値）

【観光】

観光は、秀峰駒ヶ岳をはじめ大沼・小沼・じゅんさい沼を有する風光明媚な「大沼国定公園」を中心に、仁山高原、横津岳、赤松並木等の自然環境に恵まれています。また、リゾート地としての資質も備えており、ホテル・ペンション・民宿等の宿泊施設、ゴルフ場・スキー場・サイクリングロード等の野外運動施設が民間業者の手により随時整備されています。

観光客入込数は、昭和60年度以降増加を続け、平成3年度は最高の297万人を記録しましたが、平成4年度以降景気停滞の中、減少傾向にあります。現在、宿泊客の割合が約4%と低いと、今後は通過型観光・一般型観光から滞在型観光への移行が課題となっています。

（単位：人・%）

年度	総数	道内	道外	日帰り	宿泊	前年比
H20	1,831,852	672,876	1,158,976	1,755,361	76,491	△12.1
H21	1,658,521	612,532	1,045,989	1,588,871	69,650	△9.5
H22	1,578,683	534,789	1,043,894	1,518,783	59,900	△4.8
H23	1,534,033	457,117	1,076,916	1,468,575	65,458	△2.8
H24	1,777,708	610,181	1,167,527	1,711,914	65,794	15.9

（資料／七飯町商工観光課）

【商業】

七飯町は、大沼地区の観光商店街を除いて商店街形成された地区がなく、食料品等を中心に経営規模の小さい個人商店が大半を占めている状況にあります。近年、大店法改正に伴い大型店・チェーン店等が進出していますが、同一生活圏である函館市・北斗市へ購買力が流出しており、近隣消費者も含め地域での集客可能な商業振興が課題となっています。

(単位：店・人・万円)

		H14	H16	H19
総数	商店数	210	203	195
	従業者数	1,436	1,621	1,213
	商品販売額	2,688,615	2,319,092	2,280,473
	1店当たり	12,803	11,424	11,695
	従業者1人当たり	1,872	1,431	1,880
卸売業	商店数	38	36	36
	従業者数	313	232	229
	商品販売額	1,016,038	759,021	840,626
	1店当たり	26,738	21,084	23,351
	従業者1人当たり	3,246	3,272	3,671
小売業	商店数	172	167	159
	従業者数	1,123	1,389	984
	商品販売額	1,672,577	1,560,071	1,439,847
	1店当たり	9,724	9,342	9,056
	従業者1人当たり	1,489	1,123	1,463

(資料／商業統計調査)

※平成21年商業統計調査については、実施されていない。

【工業】

七飯町は、これまでも函館圏でテクノポリス函館開発計画の推進など地域間の連携・協力について多くの実績を残してきており、北海道新幹線の開通を間近に控えた今、地域の特色や優位性を生かした産業の活性化を図っていくため、先進技術産業を中心に積極的な企業誘致を展開しています。

また、高等教育機関や学術・試験研究機関の知的資源を各種産業分野に展開して産業活性化などを目指す産学連携が活発に行われています。

年次	事業所数	従業者数	出荷額	前年比	備考
H20	31	1,107	3,095,724	△22.3	4人以上の事業所
H21	29	1,213	2,528,715	△18.3	4人以上の事業所
H22	25	1,024	2,914,133	△15.2	4人以上の事業所

(資料／商業統計調査)

【情報サービス業】

七飯町は、これまで情報産業分野においては、目立った進出はないものの、電気通信事業者や都市型 CATV 事業者など民間主導により整備が進んでいます。また、当町の東側の丘陵部は、N 値が非常に強固な地盤であり情報産業は有望分野と言えます。

【企業誘致の状況】

近年は、一般機械器具製造業や良質な水を求めて飲料・食料製造業も進出しており、地元産品を利用した製品開発など付加価値向上を目指した取り組みも進められています。

また、平成 18 年度に造成した峠下流通関連団地では、道南（函館圏：函館市・北斗市・七飯町）の交通結節点という地域性の立地条件を生かし、7 年間で約 8 割の土地を売却し、現在 5 社の企業が立地するなど成果がみえています。

（２）七飯町の産業振興を図る上の課題

A. 既存事業者の事業の充実に向けた課題

- ・ 生産技術が向上される環境の整備
- ・ 設備更新が促進される環境の整備
- ・ 環境に配慮した生産設備が導入される環境の整備
- ・ マーケティング、ブランド力の強化
- ・ 人材の育成・確保
- ・ 新製品・新商品が開発（地域資源を生かして農林水産物の加工品を開発など）される環境の整備
- ・ 新分野・新産業への展開が行われる環境の整備
- ・ 異業種・企業間の連携の強化（農商工連携などを含む。）

B. 新事業の創出に向けた課題

- ・ インフラの整備
- ・ 情報サービス業におけるソフトウェア業等の一部の業種については、都市部に限らず地方での進出が可能な産業となっているため、積極的な企業誘致活動の強化
- ・ 起業を促進するための支援の強化

5. 産業の振興の対象とする事業が属する業種

- (1) 製造業
- (2) 旅館業
- (3) 農林水産物等販売業
- (4) 情報サービス業
- (5) その他七飯町企業立地促進条例に定める業種

6. 事業の振興のために推進しようとする取組・関係団体等との役割分担

七飯町の産業を振興するため、各主体が連携して実施する取組みは以下のとおりとします。

・北海道

- (1) 租税特別措置の活用促進
- (2) 設備投資・雇用促進・産業育成のための補助金等
- (3) 地域外企業誘致のための取組
- (4) 産業振興のための人材育成

・七飯町

- (1) 租税特別措置の活用促進
- (2) 地方税の不均一課税
- (3) 国及び北海道と連携したインフラ整備の促進
- (4) 立地・設備投資・雇用促進のための補助金
- (5) 地域外企業誘致のための取組
- (5) 産業振興のための人材育成
- (6) 融資制度の斡旋

・七飯町商工会

- (1) 経営者研修等による人材育成の実施、経営改善指導、異業種交流の促進等

・一般社団法人 七飯大沼国際観光コンベンション協会

- (1) PR 活動の強化
- (2) 旅館業連携の促進
- (3) 観光プランの作成検討等

・農業協同組合

- (1) 消費者・加工企業が求める各種品目を生産者への情報提供及び指導強化

7. 計画の目標

道南の交通結節点という地域性の立地条件を生かし、引続き残りの区画地の完売と空き工場等の民有地の完売を目指して企業誘致を推進し、併せて企業誘致による雇用拡大と地域活性化を図るとします。

【今後5年間の目標】

業 種	(既存企業) 新規設備 投資件数	新規 雇用者数	(新規企業) 新規設備 投資件数	新規 雇用者数
製造業	3	10	2	20
旅館業	1	0	1	15
農林水産物等販売業	0	0	1	10
情報サービス業	3	5	1	10
その他	0	0	1	5